

聖書日課『からし種』 2025.4.5－4.12

4月5日 (日) 申命記 4章	「しかし主はあなたたちを選び出し、鉄の炉であるエジプトから導き出し、今日のように御自分の嗣業の民とされた」(20節)。「食べ物が無い」と不平をぶつけた荒れ野の旅がようやく終わる。しかし「乳と蜜の流れる地」の暮らしには、富と力の誘惑という別の闘いが待ち受けていた。それゆえモーセは民に「主の慈しみの選びと伴いの原点を忘れるな」と語りかける。
6日 (月) 申命記 5章	「主はこの契約を我々の先祖と結ばれたのではなく、今ここに生きている我々すべてと結ばれた」(3節)。「信仰」は過去の遺産ではない。「信仰」は、今ここに生きている私たちが、神の御心につなげられて生きるためのもの。戒めを守ることに心捕らわれて「信仰」を見失った人たちに、主イエスは生きて働かれる神とつながり生きる幸いと喜びを教えてください。
7日 (火) 申命記 6章	「あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」(5節)。「シェマー・イスラエル(聞け、イスラエルよ)」といわれる戒め。イスラエルの人たちは、この御言葉をいつも身に着けて離さないほど大切に。「心、魂、力を尽くして神を愛する」とはどういうことだろう。ただ一人、この御言葉を真実に生きた方がいる。それは十字架の主。
8日 (水) 申命記 7章	「あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。ただ、あなたに対する主の愛のゆえに…主は…あなたたちを導き出し…ファラオが支配する奴隷の家から救い出されたのである」(7－8節)。わたしに才能があり、将来性があり、好感がもてるからではない。主は、ただわたしを愛する愛のゆえに、貧弱なわたしのため、自ら大きな犠牲を払って行動を起こされる。

メール配信登録メール senforn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

9日 (木) 申命記 8章	「主はあなたを苦しめ、飢えさせ…マナを食べさせられた。人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きることをあなたに知らせるため」(3節)。 人は主の言葉で生きる。この真理を学ぶためにイスラエルは荒れ野に導かれた。エジプトで暮らしていた時には見向きもしなかったマナがこんなに有難く美味しいものだと思ふため。
10日 (金) 申命記 9章	「あなたが正しいので、あなたの神、主がこの良い土地を与え、それを得させてくださったのではないことをわきまなさい。あなたはかたくなな民である」(6節)。自分の小さな「正しさ」にうかれ、おごり高ぶりがちなわたしに、主は釘を刺す。「あなたは荒れ野で主を怒らせたことを思い起こせ」(7節)と。主よ、今日、あなたの慈しみの前に小さくさせてください。
11日 (土) 申命記 10章	「あなたたちの神は、主は…人を偏り見ず、賄賂を取ることをせず、孤児と寡婦の権利を守り、寄留者を愛して食物と衣服を与えられる。あなたたちは寄留者を愛しなさい」(17－19節)。主なる神の愛はぶれない。富や武力でねじ曲げられたり、目を曇らされたりしない。どんな時も明確である。私たちもいつも目を覚まして、この主なる神の愛に学ぶ者とされたい。
12日 (日) 申命記 11章	「主のなさった大いなる御業をすべて、あなたたちは自分の目で見てきた」(7節)。イスラエルの民は出エジプトや荒野を旅する行程で、主の御業をつぶさに見てきた。だから当然主の言葉に民は従うだろうと思い、「あなたたちは、わたしが今日命じるすべての戒めを守りなさい」(8節)と語られた。しかし民は主に従いきれず、呪いを受けることになる。